

パンタール通信

南北米福地開発協会

会報

2010年4月1日

79号



大山氏、中田所長、古市君（支流の水が乾き出来た土地で収穫したかぼちゃの前で）

昨年、第四の橋をかけ、一〇キロを超える奥地に、支流の水が乾き六カ月にわたる乾季の間、豊かな川の水が運んでくる栄養を含む畑に作物が出来ました。昨年、十一月頃に播いたかぼちゃ、トウモロコシ、マンジョーカ（イモ）、タルタゴなどが豊かに実りました。二月十六日に水が上がって来ているということで、陸路駆けつけて、かぼちゃの収穫をして来ました。連日の雨で翌十七日は、支流の水位が急速に上がり、最早陸路は行けず、中田、大山、古市の各氏に数名の労働者が二隻のボートで出かけて、大量のカボチャやトウモロコシ、さつま芋を収穫して来ました。ボートは途中からエンジンを止めて上にあげ、カヌーのように櫂を使って巧みに水草をかき分けながら手漕ぎで進み、大群の蚊の襲撃をものともせず、畑に上陸して収穫して来ました。畑も一部は既に水没し、かぼちゃがボカボカ浮いていたそうです。もう少しするとトウモロコシの実がしっかり実り、その時の収穫は、更に水位が上がり、ボートでそのまま横づけしながらトウモロコシをもぎ取る作業となるでしょうと中田所長も言っており、収穫の地に換えるパンタール農耕として有名な地ではないかと希望に顔を輝かせているレダです。収穫の様の写真が無いのが残念ですがじっくり想像してみてください。行けそうにも無いと思われたあの水草をボートで分けて進み、蛇やワニがいる水の中を恐れもせず飛び込み、蚊の大群も恐れず、作業してくる現地労働者の姿に「いいやー、今回は本当に敬服した。」としみじみ所長も語っていました。（飯野記）

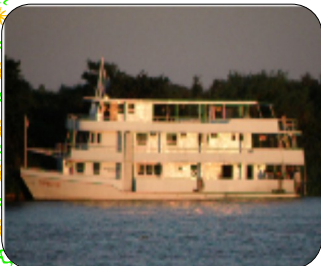


支流の水が乾いた後の土地にマンジョーカを植える。

レダを視察する人々（オリンポ市、アスンション市、バイアネグラ市から）

レダ下流九十kmに位置する州都オリンポ市にあるカソリック教会の司教がパラグアイ川沿いにある村々を研修生とともに訪問中、レダの実験農場を視察したいと立ち寄って行かれた。

レダの教育施設、農場、植林の状況を見て感動し、今後、施設を使つての教育にも関心を持つておられた。



レダ上流九十km近くバイアネグラ市に駐屯する海軍の司令官が家族とともに訪れた。バイアネグラの海軍はレダを含むパラグアイ川の流域の安全とポリビア、ブラジルの国境の警備を担当している。

十年前、レダ開拓を始めた時、すぐに海軍の駐屯所を作り、

国に奉獻、バイアネグラの海軍司令官から二人の担当官を送っていただき、レダの安全が確保され、レダは近隣で最も安全な場所となっている。

パラグアイで奉仕活動をし、働いている日本人の方が是非、パンタナールを体験したいとレダを訪問して来ました。

パラグアイの各地を今まで訪問したがパラグアイの中に、こんなにも素晴らしい観光資源があることに新たな発見をしたと感動していました。

レダの活動の一つの大きな目的がパンタナールの素晴らしさを紹介し、自然を保護していくことの大切さを実感してもらうことにあり、今回のパラグアイにいる日本人の方の訪問を通してより多くのパラグアイの方々にも働き掛けることの必要性を感じさせられました。



日本人訪問記（佐野氏報告）

【三月五日（第一日目）】

朝は快晴になった。そこで、北中氏に電話でOKを告げて、彼らは向こうを九時に飛び立った。途中、十時ごろ再びレダの天候が不穏な感じになってきた。ただひたすら、飛行機が早く無事に到着することだけを祈っていた。十一時半ごろ、予定通り飛行機が到着した。不思議なことにその時までには空は再び晴れ渡っていた。来られた人は、男性が二人と女性が三人。彼らを第一ゲストハウスに案内、二人部屋に男性、二段ベットの部屋に女性が三人入ってもらった。皆、思いもよらない綺麗なお部屋に案内されたという感じであった。

ある女性の人は、こんなところに泊めていただいているのですか？と言っていた。

十二時から昼食を共にした後、三日間の計画を話し合った。第一日目は、食事の後、簡単にセミナーハウスを紹介して、夕方ぐらいから、レダの設備を案内して周り、エコツアーロードを行ってみることにした。

そして、夕食後は、国連で紹介したパワーポイントを用いて我々が何をしているかを紹介することになった。

まず最初に、プールを案内した時には、皆それぞれに感嘆の声をあげていた。北中さんなどは、一流ホテルでも水はこんなに澄んでいないですよと言っていた。二階からの眺望、大会議場、寝室、トイレなどを順番に見せていくにつれ、施設が充実していることや管理が行き届いていることに感嘆していた。

それから水の浄水場を見せ、労働者宿舎、海軍駐留所、警察駐留所、ジェネレーターハウスを通じて第二ゲストハウスを見せ、ジャトロファ農園に行き、ジャトロファやニームの紹介をした。その後、少し乗馬を楽しんだ後、エコロードをゆっくり見て回った。

幸いにも、

ダチヨウの群

れに出くわし

た。そしてワ

ニが何匹か岸

にいたのを見

ることが出来

た。パンタナ

ルの牧童小屋

に近づいた時

たくさんの子

豚が車に近づ

いてきたのに

は、皆声を上

げて喜んでい

た。餌がもら

えると思っ

て集まってきた

らしい。都会ではこ

ういう光景も本



てしまったように思う。夕食後、パワーポイントでレダプロジェクトの目的や今までやってきた内容を紹介した。全員、真剣に聞いてくれた。この紹介で我々が単なる移住や営利などを目的としてここに来たのではなく、高邁な理想を掲げて遠大なプロジェクトを推し進めているというのを理解してもらったと思う。ジャトロファの燃焼実験にもみんなとても興味深そうで何人かの人がジャトロファの種を欲しがったのでみんなに分けてあげた。

【三月六日（第二日目）】

この日は、午前中は釣り、午後からエスペランサのインディオの村を訪問することになった。前日の、中田先生が入念に釣竿、針、リールを夜遅くまでかかって準備された。

大山先生も釣りの餌の準備や、ボートの準備に追われておられた。中井先生もボートに積む飲みものの準備などをされた。

七時過ぎ、小さなボート二台で出発。最初のポイントでは全く引きがなく、すぐ次の場所に移動。これが当たって、ピラニアを中心として面白いように釣れた。バクも何匹か釣れた。十一時までの三時間半ぐらいで六〇匹の大漁だった。

昼食後、すぐグッド号でエスペランサに向かった。海軍の兵士の護衛付きである。エスペランサでは、事前に連絡してあったので、カシケ（酋長）が学校に生徒を集めておいてくれた。生徒たちがいつもの“咲いた咲いた”の歌で歓迎してくれた。また二人の長老が、伝統的な音楽を披露してくれた。上半身裸で鳥の羽根などを頭や腰に付け、ひょうたんの鈴を振りながらの熱演には、皆とても満足していたように思う。その後、我々の建てた学校を見学、また子供たちに恒例の飴を皆に配ってもらった。子供たちに囲まれて、その勢いに圧倒されて、全員困惑気味。帰りがけに港の近くのインディオの典型的な住居を訪れて見学。電気や水道は一切なく、やしの木で出来た粗末な家に皆それぞれに感じるところがあった。

夜は、夕食の後、電気を消して星を見る時間を持った。天気も快晴で満天の星に皆とても満足していた。

【三月七日（第三日目）】



朝に植樹をしました。皆んな、パンタナールに一度来てみたいと前々から願っていたが、来ることでできても感謝だというところ。しかも、こんなに綺麗なお部屋で、こんなに良くしてもらったということに本当に感謝していると口々に言っていた。ある男性の方は色々パラグアイの観光地に行っただけでここは別格ですと言っていた。

第10回国際協力青年ボランティア隊隊員募集 (2010年8月25日 9月10日)

南北米福地開発協会では、日本の若き青年指導者たちが、海外における奉仕活動やグローバルな体験を通して、社会奉仕や異文化の理解を学ぶ機会を提供するとともに、南米、パンタナール地域のインディヒナの子供たちの教育向上に毎年、国際協力青年ボランティアを行って来ました。

今年は当協会で学校を建設したインディヒナマヨ村の学校環境の向上のため、学校の周囲に樹を植える植樹作業と学校修復ならびに教育資材の支援、そしてボリビア国境に近いバイアネグラ市において現地の学生とともに市の植樹活動を行うことになりました。日本からの青年学生の参加者は8 - 10名を送る計画です。ふるってご参加ください。

下記にある募集要綱を必要な方は事務局に連絡ください。



第10回奉仕隊は害虫が嫌うニームの樹と栄養補給に効果のあるモリンガ(写真)の植林も行っていることになっています。

第10回国際青年奉仕隊募集要綱

期 間：2010年8月25日(水)～9月10日(金)

8/24(火)：オリエンテーション・研修を行います。

8/25成田発 後日、参加者にスケジュールの詳細を通達。

活動場所：パンタナール地域：マヨ村、バイアネグラ市

活動内容：マヨ村植樹と学校修復とバイアネグラ市で学校生徒代表等と共同植樹活動及び文化交流、レダにて奉仕活動、自然探訪、学習会、乗馬、釣り体験

参加資格：18歳以上25歳まで(健康に自信のある男女)

参加条件 小論文(400字以内)提出

テーマ：「参加の動機及び将来の夢」 提出期限：6月30日

提出先：南北米福地開発協会(FAX・Emailも可)

小論文に各紹介者の推薦文を添付すること

合格発表：7月5日 直接該当者に連絡致します。

募集人数：8 - 10名

参加費用：15万円

成田 アスンシオン往復航空チケット代は主催者が支援いたします。(小遣い、海外保険、家から成田までの往復費用などは個人負担)

申し込み及び問い合わせ先：南北米福地開発協会事務局

担当：柴沼 TEL：044-829-2821

FAX：044-829-2820

Email：office@asd-nsa.jp

地球家族として
自然を守りましょう

南北米福地開発
協会会員の募集

南米、パラグアイパンタ
ール地域へのエコツアー
ならびに植林活動を通じて
生態系の維持と強化を促進し、
その地域をモデルとし、
世界に環境保護の
大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、
パンタナール通信を送ります。
また、
各種のセミナー、エコツアー
等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局

〒211-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口二丁目一十五

岩崎ビル四F

電話

〇四四-八二九-二八二二

Fax

八二九-二八二〇

会費納入

郵便口座

一〇一八

〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

E-MAIL

office@asd-nsa.jp

ホームページ

http://www.asd-nsa.jp